



プレスリリース

HIV 陽性者は、HIV と COVID-19 の二重の危機に直面。キーポピュレーションと子供たちは HIV サービスを利用できずに取り残された状態が続く (UNAIDS 年次報告書 2021 プレスリリース)

HIV 陽性者は、新型コロナウイルス感染症 COVID-19 の重症化や死亡のリスクが高くなるのに、多くの人が COVID-19 ワクチンへのアクセスを拒否されています。新規 HIV 感染の 65% を占めるキーポピュレーションとその性パートナーは、HIV 対策と COVID-19 対策の両方からほぼ除外されている状態です。HIV 陽性の子供 80 万人は、生きるために必要な治療を受けられずにいます

ジュネーブ 2021 年 7 月 14 日 – 国連合同エイズ計画 (UNAIDS) は本日、年次報告書『不平等に立ち向かう』(グローバルエイズアップデート 2021) を発表しました。HIV 陽性者は COVID-19 に対し脆弱な立場に置かれているのに、不平等の拡大で COVID-19 ワクチンや HIV サービスを利用できないであることを強調し、そのエビデンスを示しています。

イギリスおよび南アフリカの研究によると、HIV 陽性者が COVID-19 で死亡するリスクは、一般の 2 倍となっています。世界の HIV 陽性者の 3 分の 2 (67%) が住むサハラ以南のアフリカでは、2021 年 7 月までに COVID-19 ワクチンを少なくとも 1 回接種した人は 3% 未満でした。キーポピュレーション、および子供や青年に対する HIV の予防と治療のサービスも減少しています。

COVID-19 ワクチンは、途上国の何千万という人の命を救えるのに、富裕国や企業が利益のために生産と供給の独占をかたくなに守ろうとすることから、手の届かない状態に置かれています。このことが世界中に深刻な影響を及ぼし、ウガンダではサッカースタジアムを仮設病院にするなど途上国の医療制度は限界に達しています。

「南の国々が危機に瀕しているというのに、ヨーロッパの富裕国では COVID-19 ワクチンを簡単に接種できるので人びとが夏のバカンスを楽しむ準備をしています」と UNAIDS のウィニー・ビヤニマ事務局長は述べています。「何百万もの人々が救命薬を拒否され、アクセスの不平等のために亡くなっていった。あの HIV の教訓から学ぶことができていないのです。こんなことは到底、受け入れられません」

UNAIDS の年次報告書は、COVID-19 対策としてのロックダウンその他の制限により HIV 検査が受けた大きな混乱を指摘しています。その結果、多くの国で HIV の診断やケアサービスへの紹介、治療開始の件数が急減しました。たとえば、南アフリカのクワズール・ナタール州では 2020 年 4 月に 1 回目のロックダウンが実施された結果、HIV 検査は 48% 減少しています。HIV 感染診断と治療の開始も著しく減少しました。2 万 8000 人の HIV コミュニティ・ヘルスケア・ワーカーが、HIV 検査から COVID-19 の症状によるスクリーニング業務に移行することで起きたのです。

報告書『不平等に立ち向かう』によると、2020 年には 150 万人の新規 HIV 感染者の多くがキーポピュレーションとその性パートナーで占められています。注射薬物使用者、トランスジェンダー女性、セックスワーカー、

ゲイ男性など男性とセックスをする男性、およびこの人たちの性パートナーが 65%を占めているのです。サハラ以南のアフリカ以外ではキーポピュレーションが新規 HIV 感染の 93%を占め、サハラ以南のアフリカでは 35%でした。しかし、この人たちは社会から排除され、ほとんどの国で HIV サービスの対象外に置かれたままになっています。

報告書によると、2020 年までに 90-90-90 ターゲットを達成した 19 カ国のうちの多くは、コミュニティ主導のサービスが施設ベースのサービスを補完し、利用者に合わせた分化型サービス提供を先駆的に実施している国でした。また、ほとんどの国でキーポピュレーションが対策の中心に加わっています。たとえば、エストニアでは、包括的なハームリダクションのサービスが拡大したのを受け、国内の新規 HIV 感染が 61%減少し、注射薬物使用者の間では 97%減少しました。

HIV の検査と治療は過去 20 年で大きく拡大しました。2020 年には 3770 万人の HIV 陽性者のうち約 2740 万人が治療を受けています。ただし、子供に対するサービス提供はいまなお、成人に比べはるかに大きなギャップがあります。2020 年には、0~14 歳の HIV 陽性の子供約 80 万人が HIV 治療を受けていません。2020 年の成人の治療普及率は 74%ですが、子供では 54%にとどまっています。子供たちの多くが出生時に HIV 検査を受けておらず、HIV に感染していることに気づいていません。子供たちの感染を確認し、ケアを提供できるようにすることが大きな課題となっています。

『不平等に立ち向かう』は、サハラ以南のアフリカの女性と少女が依然、HIV 感染の高いリスクに曝されていることを指摘しています。そのリスクの中心にあるのはジェンダーの不平等とジェンダーに基づく暴力です。ジェンダーの不平等とジェンダーに基づく暴力は、女性と少女から、教育、健康、経済的機会への権利を含む基本的人権を奪っています。このことが HIV 感染のリスクを高め、サービスへのアクセスを阻んでいるのです。サハラ以南のアフリカでは、思春期の少女と若い女性は全人口のわずか 10%なのですが、新規 HIV 感染者の 25%を占めています。

貧困と教育の欠如もまた、健康と HIV サービスを妨げる大きな障壁となっています。報告書によると、貧困状態で暮らす人たちは、女性のための家族計画サービス、および男性と少年に向けた自発的男性器包皮切除を利用しなくなっています。2020 年には、東部・南部アフリカの優先 15 カ国で自発的男性器包皮切除の件数が 30%以上減っていました。

貧困は移住を促し、それが HIV サービスの利用にも深刻な影響を与えています。安全と経済的な保障を期待して紛争と貧困から逃れようとする人たちに、生命の危険をもたらすこともあるのです。

「億万長者は地中海でヨットを浮かべています。その同じ海で、移住を求める人たちが溺れているのです」とビヤコマ事務局長は言います。「この状態を『ニューノーマル』などと呼び、座視できますか。私たちはこの恐ろしい不平等に立ち向かい、基本的人権の尊重という基本に立ち戻らなければなりません」

不平等は自然発生しているわけではありません。包含ではなく、分断を進行させるような政策とプログラムの結果なのです。たとえば、キーポピュレーションは性自認や性表現、性的指向、生計の手段などを理由に排除され、犯罪者として扱われています。報告書が紹介する新たな分析は、HIV 対策の結果と差別を禁止する法律の採用との間にポジティブな相関関係があることを示しています。サハラ以南のアフリカの調査によると、セックスワーカーの HIV 陽性率は、セックスワークを犯罪と見なしている国では 39%でしたが、セックスワークを部分的に合法化した国では 12%です。

「私たちは HIV と 40 年にわたって闘ってきました。不平等を解消すること、そして、人びとを中心に据え、権利に基づくアプローチを推進し、コミュニティと協力して困っているすべての人に手を差し伸べること、それが

できない限り、パンデミックに対しては、備えることも、克服することもできない。このことを40年の成功と失敗の両方から教訓として学んだのです」とビヤニマ事務局長は語っています。

UNAIDS

The Joint United Nations Programme on HIV/AIDS (UNAIDS) leads and inspires the world to achieve its shared vision of zero new HIV infections, zero discrimination and zero AIDS-related deaths. UNAIDS unites the efforts of 11 UN organizations—UNHCR, UNICEF, WFP, UNDP, UNFPA, UNODC, UN Women, ILO, UNESCO, WHO and the World Bank—and works closely with global and national partners towards ending the AIDS epidemic by 2030 as part of the Sustainable Development Goals. Learn more at [unaids.org](https://www.unaids.org) and connect with us on Facebook, Twitter, Instagram and YouTube.